

入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	平成25年3月13日(水) 東北大学本部事務機構本館第二会議室	
委員	委員長 加藤義雄 (元仙台市副市長) 委員 三輪佳久 (弁護士) 委員 手島貴弘 (公認会計士)	
審議対象期間	平成23年10月1日～平成24年9月30日	
抽出案件(合計)	10件	(備考) 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立ての審議はなし。 「建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議」については、抽出案件に係る発注担当者が回答した。
工事(小計)	6件	
一般競争 (政府調達協定対象工事)	1件	
一般競争 (政府調達協定対象工事を除く)	2件	
通常指名競争	1件	
随意契約	2件	
設計・コンサルティング業務	4件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	・特になし	

質 問	回 答
<p>1. 審議対象工事及び業務の抽出について (担当委員より説明)</p> <p>・特になし</p>	
<p>2. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議</p> <p><u>(1) 一般競争入札方式（政府調達協定適用対象工事）</u></p> <p>【(星陵)医学部3号館耐震改修事業】</p> <p>・工事概要の説明のほか、「高度技術提案型」の説明願いたい。また、他の政府調達と比べて落札率が高止まりしている理由を説明願いたい。</p>	<p>・本事業は、星陵団地に所在する医学部3号館（1969年築、鉄筋コンクリート造、地上12階地下1階建、延べ面積合計14,080㎡）耐震改修事業である。同建物は星陵地区で4番目の床面積を有し、居住者全体を退避させるスペースを確保することが困難で、部分改修を繰り返すことにより工事を完成させる必要がある。部分改修の繰り返しで建物全体の構造を補強することは技術面・コスト面で非常に難しく、また、施工後の効果を考慮すると免震化が現実的であるため、免震改修を想定したものである。</p> <p>・既存建物の免震化は各企業が独自の新技術・新工法に取り組んでおり、設計標準案を定義にした場合、効果的な技術提案を阻害する恐れがあるため、本学側の要求水準のみ示し、設計・施工を一括して技術提案させ、入札価格と技術評価の総合評価で落札者を決定するものであり、技術的な提案の幅の自由度が大きいため、水準を満たせない（確認できない）提案や本学のニーズにそぐわない提案が生じることがありうることから、提案の改善（追加説明）を求めながら、水準を満たした入札者を確保するものである。</p> <p>・落札率が高止まりしている理由は、技術評価点の最も高い事業者の直接工事費を基礎として算出したため。</p>

<p>・高度技術提案型の採用は競争参加資格等審査委員会で決定されたものなのか。また、委員会の構成員について説明願いたい。</p>	<p>・高度技術提案型の採用は競争参加資格等審査委員会において決定された。委員会の構成員は、施設部長、各課長、学外の外部委員（東北工業大学教授）、学内の外部委員（工学部教授）に依頼をしている。</p>
<p>（2）一般競争入札方式 【（病院）東西病棟等テレビ共聴設備（地デジ対応）改修工事】 ・工事概要、低入札の調査結果について説明願いたい。</p>	<p>・本工事は、大学病院の東西病棟等のテレビ共聴設備を地上デジタル波受信対応に改修するものである。 ・全国的には平成23年7月24日をもってアナログ放送が終了しデジタル放送へ移行しており、東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）については、平成24年3月31日まで延期されたことで、全国的な移行が完了したことによる、資材メーカー側の在庫処分が大きな要因となった。</p>
<p>（3）一般競争入札方式 【（病院）東病棟3階内部改修機械設備工事】 ・同事業の建築工事の入札資格がA～Cなのに対し、本工事の入札資格をAに限定している理由を説明願いたい。</p>	<p>・工種による参加資格等級の違いとして建築一式工事はA（6億円以上）、B（2億円以上）、C（7千万円以上）、D（C未満）と分けし管工事はA（1億円以上）、B（3千5百万円以上）、C（B未満）としている。建築工事はC等級を2等級上位まで拡大（H24年度参加者確保策）したため、A～Cまでの入札資格等級の設定になった。 管工事はA等級の工事であり、大学病院の設備ということから安易に等級を下げる事ができないため入札資格をAに限定した。</p>
<p>・今回（23年下期+24年上期）で1者入札の割合が多くなっている理由を説明願いたい。</p>	<p>・1者入札が多くなった理由として、震災以降の工事増大により、建設業法で定める専任の配置技術者（管理者）の不足と職人の不足により受注量に限界が生じているものと推測される。</p>
<p>・1者入札が多くなっていることに対する大学側の対応について説明願いたい。</p>	<p>・建築業法において、隣接する工事は1件とみなして構わないことから東北大学では、仙台市内の本学発注の工事であれば、2件まで主任技術者の兼務を認め、事業者の確保をしている。</p>

<p><u>(4) 指名競争入札方式</u></p> <p><b>【(雨宮) 仮設校舎整備事業】</b></p> <p>・工事概要、各社の入札金額のほか指名競争が採用できる工事についてのルール等を説明願いたい。また、本工事がそれに適している点を説明願いたい。</p>	<p>・工事概要は、東北地方太平洋沖地震により被災した校舎の仮設。</p> <p>・指名競争採用時のルールとして、仮設校舎であるため緊急随意契約(契約事務取扱細則第40条第2号及び第42条第1号)を適用。随意契約によることができる場合における指名競争(契約事務取扱細則第34条第4号)を適用。</p> <p>・本工事が指名競争を採用した理由として、規格プレハブメーカーは資材状況の把握や見積り要請に対して迅速に対応可能と考え、特命随意契約と同等の期間で契約可能と考えた。また、1社との特命随契は不成立となった場合に次の候補者との交渉を早く開始できることから、指名競争が最もメリットがあると判断した。</p>
<p><u>(5) 随意契約方式</u></p> <p><b>【東日本大震災に伴う災害復旧関連工事】</b></p> <p>・災害復旧関連工事の中で、随契理由が1号、2号、3号と区々になっている理由を説明願いたい。</p>	<p>○契約の性質 目的が競争を許さない理由(第40条1号)</p> <p>(青葉山3外) 法面等災害復旧整備事業は、地震による被害を受けた法面の応急復旧工事である。</p> <p>当時、土木系設計事務所は震災復旧業務の繁忙により、受注者の確保が困難で、設計施工分離では工事開始の見通しが立たなかった。設計施工一括発注は、建設業者の設計部門を活用し迅速に工事が進められ、設計と現場状況が一致しないことに対して一体的な責任を負い、工事費の増額が生じにくいことなどのメリットがあることからプロポーザル方式により技術提案を求め最も評価の高い社と、契約事務取扱細則第40条1号及び第40条第5号(特定の者以外では契約の目的を達成することができないとき)を適用し契約を締結した。</p> <p>○緊急の必要性となる理由(第40条2号)</p> <p>予算示達前の事前着工分で、可能な限り早急</p>

	<p>に着手しなければ被害拡大の恐れがあり、また、本学の活動に著しい制約やリスクが生じる工事。</p> <p>○競争に付すことが不利となる理由（第40条3号）</p> <p>平成23年度第3次補正予算（H23.11.21成立）成立後の着工分で工事価格の上昇が続いており、早期に契約しなければ不利な状況となる恐れがある工事。</p>
<p><u>（6）随意契約方式</u></p> <p>【（片平）学術資源拠点等改修整備事業】</p> <p>・工事概要のほか、「契約の性質又は目的が競争を許さない」具体的な理由を説明願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（片平）史料館（1,925年築、RC2階建、1,241㎡）及び（片平）多元研事務棟（1,927年築、RC2階建、892㎡）の耐震改修事業である。両建物は、大正末期から昭和初期にかけての建物で、耐震改修と建物保存の両面の観点から最適な工法等を選択するため、設計から施工までを一括して実施するものである。</li> <li>・史料館は大正14年、多元研事務棟は昭和2年に建設された片平地区の歴史的建築物となっており、構造的強度が確保されていることを前提に、外観等の変更を許容しながら進める一般耐震改修と異なり、古い建築物の趣を損なわないよう耐震性の向上を図るには、施工上の技術的裏付けをもって設計する必要があることから、設計・施工を一括で発注することとしたものである。業者の選定にあたっては、プロポーザル方式により技術提案を公募し、最も評価が高い社と、契約事務取扱細則第40条1号及び第40条第5号（特定の者以外では契約の目的を達成することができないとき）を適用した随意契約を締結するものとした。</li> </ul>
<p><u>（7）公募型プロポーザル方式</u></p> <p>【（片平）次世代情報通信プロジェクト研究拠点新営設計業務】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4. 課題についての提案」において評価点に大差がついた理由</li> <li>A社（評価1位）</li> </ul>

<p>・技術提案書評価表の中で、「4. 課題についての提案」部分で点数に大差がついた理由を説明願いたい。</p>	<p>片平南キャンパスのランドマークとしての提案が具体的で、トータルコスト縮減や工期短縮に対しても構造的な部分から具体的に踏み込んだ提案がなされた。構造面において、低振動実験室に対する配慮としてエレベータの振動対策を考慮するなど、他社にはない研究拠点への配慮が高い評価を集めた。</p> <p>また、他2社については、提案内容にコストアップの要因やコスト削減効果への疑問等があり、1位の社ほど評価が伸びなかったため。</p>
<p><u>(8) 簡易公募型プロポーザル方式 (拡大)</u>  <b>【(青葉山3) 災害復興・地域再生重点研究拠点新営設計業務】</b>          ・技術提案書評価表の中で、「4. 課題についての提案」部分に掲げた評価事項を用いた理由とともに3者間の評価点数結果の違いについて説明願いたい。</p>	<p>・「4. 課題についての提案」部分に掲げた評価事項採用の経緯として、評価項目の選定は全3回のうち第1回目の委員会で評価事項を決定する。本件の評価事項は震災後の免震新営棟の標準的な課題を採用している。</p> <p>○「4. 課題についての提案」における各社評価点数結果の違いについて</p> <p>A社 (評価1位)          提案のコンセプトがわかりやすく、トータルコスト縮減や工期短縮に対しても構造的な部分から具体的に踏み込んだ提案がなされた。将来の増築計画の考慮においても、キャンパスマスタープランとの整合性を保った建物配置案が高い評価を集めた。</p> <p>B者 (評価2位)          具体的で踏み込んだ提案がなされているが、トータルコスト縮減や工期短縮の効果が不明瞭であり、建物配置計画案についてキャンパスマ</p>

	<p>スタープランとの整合性を保てるか疑問が残ったことから評価が伸びなかった。</p> <p>C社（評価3位）</p> <p>建物配置計画案についてはキャンパスマスタープランとの整合性に配慮した提案と評価されたが、トータルコスト縮減や工期短縮に関して構造的な検討に弱さがあったことから評価が伸びなかった。</p>												
<p>・評価点数はどのように算出しているのか説明願いたい。</p>	<p>・提出された技術提案書を基にして、評価委員にA～Cの中で各項目を評価していただき、平均をとって各業者の点数を決定している。</p>												
<p><u>（9）一般競争契約方式</u></p> <p>【①（青葉山3）レアメタル・グリーンイノベーション研究開発拠点用地地盤調査業務】</p> <p>【②（青葉山2）総合研究棟（Ⅲ期）新営工事地盤調査】</p> <p>・概要、各社の入札金額を示していただき、同じ青葉山地区の地盤調査で落札率に大きな差が生じた理由を説明願いたい。</p>	<p>・免震建物を設計する際に必要となる、その場所固有の地盤の特性を把握する調査。建物の規模等に応じてボーリングし、地下の土質、地下の密度や硬さを調査、さらに測定器を下して地震波の伝わり方や常時発生している微動の状況などを測定する。</p> <p>この結果は設計にあたり、建物をどのような構造とするか決定するためのデータとなる。</p> <p>① 各社入札金額</p> <table border="1" data-bbox="783 1285 1358 1646"> <thead> <tr> <th>入札者名</th> <th>第1回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央開発(株)</td> <td>5,250,000</td> </tr> <tr> <td>千葉エンジニアリング(株)</td> <td>6,900,000</td> </tr> <tr> <td>(株)東京ソイルサーチ</td> <td>7,500,000</td> </tr> <tr> <td>東北ボーリング(株)</td> <td>8,000,000</td> </tr> <tr> <td>基礎地盤コンサルタンツ(株)</td> <td>8,800,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>予定価格（入札書比較価格） 8,910,000 円          落札率 58.92% 中央開発(株)に決定</p>	入札者名	第1回	中央開発(株)	5,250,000	千葉エンジニアリング(株)	6,900,000	(株)東京ソイルサーチ	7,500,000	東北ボーリング(株)	8,000,000	基礎地盤コンサルタンツ(株)	8,800,000
入札者名	第1回												
中央開発(株)	5,250,000												
千葉エンジニアリング(株)	6,900,000												
(株)東京ソイルサーチ	7,500,000												
東北ボーリング(株)	8,000,000												
基礎地盤コンサルタンツ(株)	8,800,000												

	<p>② 各社入札金額</p> <table border="1" data-bbox="783 315 1366 689"> <thead> <tr> <th>入札者名</th> <th>第1回</th> <th>第2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>㈱東京ソイルサーチ</td> <td>19,800,000</td> <td>18,800,000</td> </tr> <tr> <td>基礎地盤コンサルタンツ㈱</td> <td>20,200,000</td> <td>19,400,000</td> </tr> <tr> <td>東北ボーリング㈱</td> <td>20,480,000</td> <td>19,400,000</td> </tr> <tr> <td>中央開発㈱</td> <td>20,800,000</td> <td>19,700,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>予定価格（入札書比較価格） 18,870,000 円          落札率 99.63% ㈱東京ソイルサーチに決定</p> <p>・青葉山地区の地盤調査で落札率に差が生じる理由は業者の受注状況が影響しているものと思慮される。          ①の落札業者：中央開発（株）から聴き取りを行った結果、掘削機などの調査機械を効率よく展開するよう現場を確保したい中で、震災以降は受注がタイトであったが、レアメタル棟の調査時期に空きがあり価格を下げて現場の確保を考えたものである。</p>	入札者名	第1回	第2回	㈱東京ソイルサーチ	19,800,000	18,800,000	基礎地盤コンサルタンツ㈱	20,200,000	19,400,000	東北ボーリング㈱	20,480,000	19,400,000	中央開発㈱	20,800,000	19,700,000
入札者名	第1回	第2回														
㈱東京ソイルサーチ	19,800,000	18,800,000														
基礎地盤コンサルタンツ㈱	20,200,000	19,400,000														
東北ボーリング㈱	20,480,000	19,400,000														
中央開発㈱	20,800,000	19,700,000														
<p>・予定価格はどのように作成しているのか説明願いたい。</p>	<p>・予定価格は業者からの見積を参考に作成している。</p>															
<p><u>（10）一般競争方式</u>  <b>【（片平）多目的施設新営その他設計業務】</b>          ・概要、見積徴求業者5社の選定基準を説明願いたい。</p>	<p>・震災以降、設計事務所は非常に繁忙で各業務を担当する技術者の配置に苦慮しており、比較的人気のある大規模新営棟においても応募者が減少している。小規模事業においては、技術提案書作成が大きな負荷となっており、指名したにも関わらず全社応募を辞退する現象が発生している。本件の規模においてプロポーザル方式による選定を行うことは、契約相手方の決定を遅らせる恐れがあるため、事業者を選定し見積合せで決定することにより、業務の質の確保と参加者の負担軽減を図ったものである。見積業者は、文部科学省の設計コンサルティング（建築）に登録した仙台市内に本社を置く設計事務所のうち評点上位5社を選定した。</p>															